

—科学研究費助成事業— 科研費公募説明会

令和2年9月25日(金) 13:00～

作成:学長室研究支援センター

本日の説明内容

【第一部】

①研究計画調書作成のポイント

【第二部】

②科研費応募概要説明

I 令和3年度科研費の応募にあたって

II 科学研究費助成事業について

III 公募内容の変更点

③研究計画調書の概要説明

IV 研究計画調書作成にあたっての留意点

I 科研費の応募にあたって

令和3年度科研費の応募にあたって

1. 応募資格の確認

専任以外の研究者は、研究代表者としての応募は条件付で容認。
研究分担者は、過去に本学で研究代表者として採択実績がある者、
学振特別研究員(PD、RPD)は条件付で容認。

2. 応募する研究種目の決定

公募要領記載の研究種目一覧を確認。
ご相談は研究支援センターへ。

3. 応募予定者の方は『事前調査票』を提出

9月30日(水)までに、事前調査票を研究支援センターに提出。
応募資格と応募種目間の重複制限等の確認。

4. e-RadのID・パスワードを確認

科研費への応募は、電子申請システムによって行われるため、システム
にログインするためのIDとパスワードが必要。

5. 研究分担者をおく場合

承諾手続きは電子申請システムで行う。

分担者承諾後、さらに当該所属機関での承認が必要。

注意：本手続きが未完了の場合、研究計画調書の提出不可。

6. 申請書類を作成し、学内締切までに提出(電子申請)

電子申請システムで作成、送信すると、データは研究支援センターに。

さらに機関での承認が完了すると、申請完了。

機関での承認の前に、研究支援センターで内容確認。

【研究計画調書の提出期限】

学内締切・・・10月16日(金)： 本締切・・・11月5日(木)

提出後も修正は何回でも可能、まずは学内締切までにご提出を。

7. 研究支援センターから確認・修正の連絡

6の内容確認で修正が必要な箇所があった場合には、確認・修正に関して連絡(E-mail・電話)。連絡がつかない場合は修正箇所があっても、そのまま日本学術振興会へ本申請となるので、ご留意を。

Ⅱ 科学研究費助成事業について

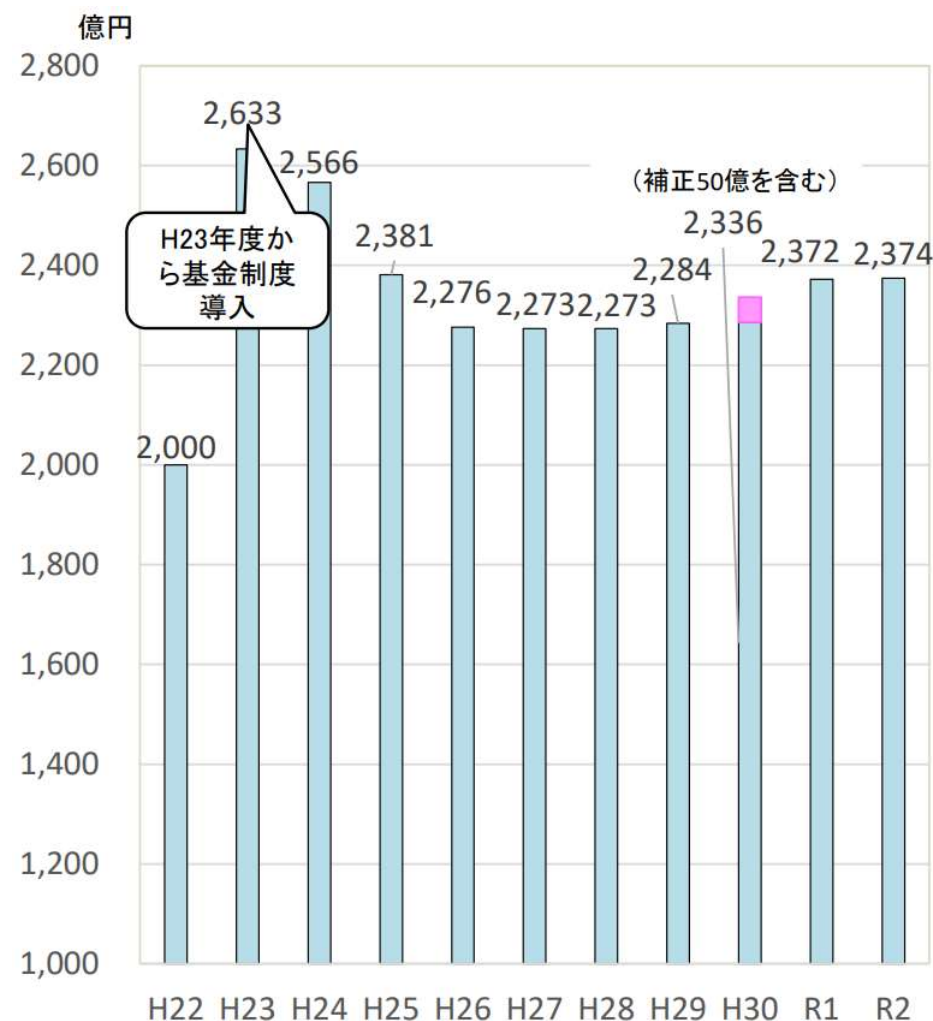
【令和3年度科学研究費助成事業公募要領等説明会より】

Ⅱ 科学研究費助成事業について

科学研究費助成事業—科研費—概要

- ◆ 科研費は、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」を発展させることを目的とする「競争的研究資金」
- ◆ 人文学、社会科学から自然科学まで全ての分野が対象
- ◆ ピアレビューによる審査を経て、独創的・先駆的な研究に対して助成
- ◆ 令和2年度の予算規模は2,374億円
 - 基金制度の導入で増減があるが、ほぼ同規模で推移も前年度から増額の傾向

科研費の予算額の推移

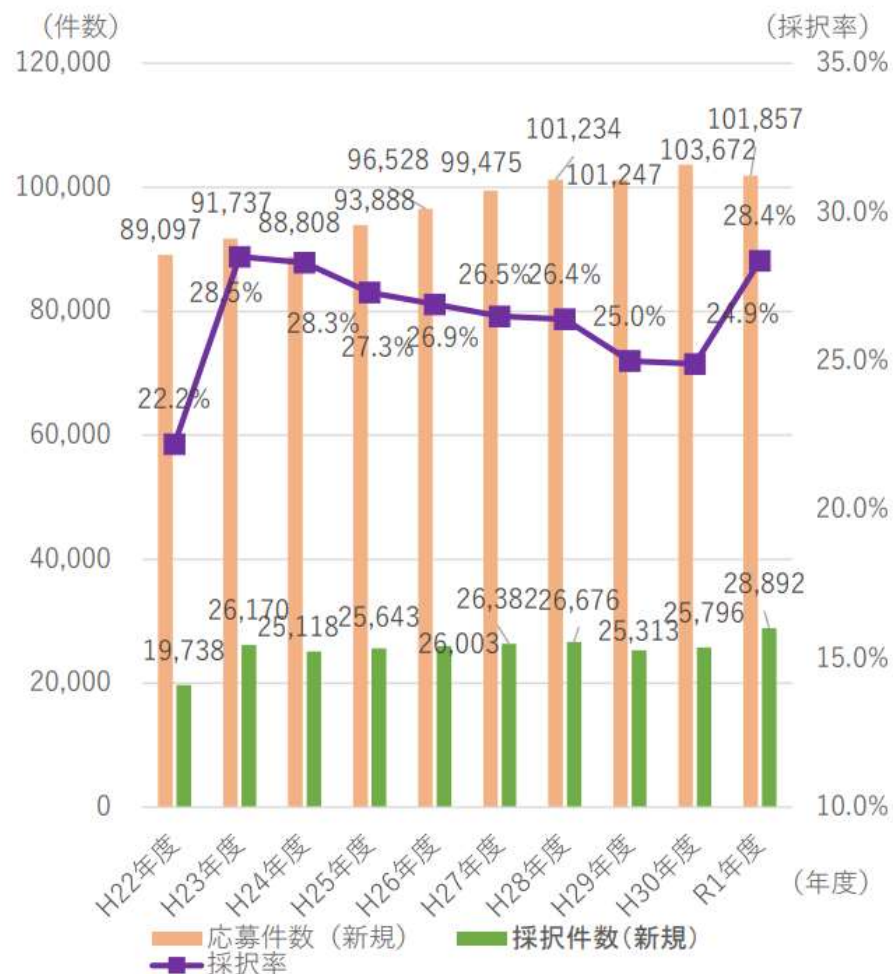


Ⅱ 科学研究費助成事業について

科学研究費助成事業—科研費—概要

- ◆ 10万件超の新規応募に対し、採択数は約2.9万件
- ◆ 新規採択率は28.4%（R1年度採択分／奨励研究は除く）
 - 学習院大学の採択率は
令和元年度・・・39.3%
(令和2年度・・・44.8%)

科研費の応募・採択件数、採択率の推移



※出所：令和3年度科学研究費助成事業公募要領等説明会資料

Ⅱ 科学研究費助成事業について

研究種目一覧（R3年9月公募分）

研究種目等	研究種目の目的・内容
科学研究費	
特別推進研究	<p>新しい学術を切り拓く真に優れた独自性のある研究</p> <p>研究期間:3～5年(真に必要な場合は最長7年)</p> <p>応募総額:2億円～5億円(真に必要な場合は5億円超でも可)</p>
新学術領域研究※	<p>(研究領域提案型)多様な研究者グループにより提案された学術水準の向上・強化に繋がる新たな研究領域を発展させる</p> <p>研究期間:原則5年</p> <p>応募総額:1領域単年度当たり 1,000万円～3億円程度</p>
基盤研究	<p>(S) 1人又は比較的少人数の研究者が行う独創的先駆的な研究</p> <p>研究期間:5年 応募総額:5,000万円～2億円</p>
	<p>(A・B・C)1人又は複数の研究者が共同して行う独創的先駆的な研究</p> <p>(A)研究期間:3～5年 応募総額:2,000万円～5,000万円</p> <p>(B)研究期間:3～5年 応募総額:500万円～2,000万円</p> <p>(C)研究期間:3～5年 応募総額:500万円以下</p>

※令和2(2020)年度公募以降、継続研究領域の公募研究のみ公募

Ⅱ 科学研究費助成事業について

研究種目一覧（R3年9月公募分）

研究種目等	研究種目の目的・内容
科学研究費	
挑戦的研究	<p>（開拓）（萌芽）これまでの学術の体系や方向を大きく変革・転換させることを志向し、飛躍的に発展する潜在性を有する研究</p> <p>（開拓）研究期間：3～6年 応募総額：500万円～2,000万円 （萌芽）研究期間：2～3年 応募総額：500万円以下</p>
若手研究	<p>博士の学位取得後8年未満の研究者が一人で行う研究</p> <p>研究期間：2～5年 応募総額：500万円以下</p>
特別研究促進費	緊急かつ重要な研究課題の助成
研究成果公開促進費	
学術図書	学術研究の成果を公開するために刊行する学術図書の助成
データベース	公開利用を目的とするデータベースの作成への助成

Ⅱ 科学研究費助成事業について

科学研究費助成事業 審査結果一覧①

科研費審査結果一覧（（令和2年度 新規採択分））

令和2年8月現在

研究種目	研究課題数		採択率 (%)
	応募 (件)	採択 (件)	
特別推進研究	[106]	[12]	[11.3]
	105	12	11.4

研究種目	研究課題数		採択率 (%)
	応募 (件)	採択 (件)	
新学術領域研究(研究領域提案型) (平成29年度及び令和元年度採択領域) 公募研究	[3,522]	[809]	[23.0]
	3,729	839	22.5

(注1) []内は、前年度の数値を示す。

※出所：令和3年度科学研究費助成事業公募要領等説明会資料

Ⅱ 科学研究費助成事業について

科学研究費助成事業 審査結果一覧②

科研費審査結果一覧(令和2年度 新規採択分)

令和2年8月現在

研究種目	研究課題数		採択率 (%)
	応募 (件)	採択 (件)	
基盤研究	[60,225] 60,350	[16,931] 16,859	[28.1] 27.9
基盤研究(S)	[659] 685	[81] 80	[12.3] 11.7
基盤研究(A)	[2,412] 2,519	[605] 611	[25.1] 24.3
基盤研究(B)	[11,396] 12,198	[3,327] 3,393	[29.2] 27.8
基盤研究(C)	[45,758] 44,948	[12,918] 12,775	[28.2] 28.4

(注1) []内は、前年度の数値を示す。

(注2) 「特設分野研究」は除く。

※出所：令和3年度科学研究費助成事業公募要領等説明会資料

Ⅱ 科学研究費助成事業について

科学研究費助成事業 審査結果一覧③

科研費審査結果一覧（（令和2年度 新規採択分））

令和2年8月現在

研究種目	研究課題数		採択率（％）
	応募（件）	採択（件）	
挑戦的研究	[11,514] 11,329	[1,469] 1,389	[12.8] 12.3
挑戦的研究（開拓）	[699] 1,607	[81] 148	[11.6] 9.2
挑戦的研究（萌芽）	[10,815] 9,722	[1,388] 1,241	[12.8] 12.8

研究種目	研究課題数		採択率（％）
	応募（件）	採択（件）	
若手研究	[19,590] 18,708	[7,831] 7,496	[40.0] 40.1

（注1）〔 〕内は、前年度の数値を示す。

（注2）「特設審査領域」は除く。

※出所：令和3年度科学研究費助成事業公募要領等説明会資料

Ⅲ 公募内容の変更点

【令和3年度科学研究費助成事業公募要領等説明会より】

Ⅲ 公募内容の変更点

【説明内容】

1. 令和3(2021)年度公募の主な変更点

2. 科研費使用等に関する主な改善点・変更点

3. その他連絡事項

1. 令和3(2021)年度公募の主な変更点①

「若手研究」の研究期間等について

R3公募
NEW!

「若手研究」の研究期間の延伸

「第6期科学技術基本計画に向けた科研費の改善・充実について
(中間まとめ)」
(令和2年6月30日 科学技術・学術審議会学術分科会研究費部会)

現状

- 「若手研究」の目的・意義は、「経験の少ない若手研究者に研究費を得る機会を与え、研究者として良いスタートを切れるように支援すること」、そして、「若手研究者が十分に力を蓄えていない段階であっても、支援をすることにより、多様な試みの中から本当に育つべきものがしっかりと足掛かりを得、将来の斬新な研究につながっていくようにすること」にあり、科研費の中でも若手研究者に限定した一定期間の特別な支援である。
- 若手研究者が継続的・安定的に研究を遂行できることは極めて重要であり、「基盤研究(A・B・C)」と同様、研究期間を延伸することを検討すべきではないか。



改善に向けた方向性

- これまで以上に継続的・安定的な研究実施を可能とするため、研究期間の上限を5年間に延伸する。なお、若手研究者が次のキャリアを形成していく上で、研究期間設定の自由度は高い方が望ましいと考えられるため、下限は引き続き2年間とする。

令和3(2021)年度公募より、「若手研究」の研究期間を「2～4年間」から「2～5年間」に延伸する。

1. 令和3(2021)年度公募の主な変更点②

「若手研究」の応募資格等について

R3公募
NEW!

「若手研究」種目群への「基盤研究」種目群採択者の応募制限

現状

「第6期科学技術基本計画に向けた科研費の改善・充実について
(中間まとめ)」
(令和2年6月30日 科学技術・学術審議会学術分科会研究費部会)

- ・ (再掲) 「若手研究」の目的・意義は、「経験の少ない若手研究者に研究費を得る機会を与え、研究者として良いスタートを切れるように支援すること」、そして、「若手研究者が十分に力を蓄えていない段階であっても、支援をすることにより、多様な試みの中から本当に育つべきものがしっかりと足掛かりを得、将来の斬新な研究につながっていくようにすること」にあり、科研費の中でも**若手研究者に限定した一定期間の特別な支援**である。

改善に向けた方向性



- ・ 「若手研究」種目群の趣旨に照らし、「若手研究」種目群から「基盤研究」種目群へのスムーズな移行を励行するため、一度「基盤研究」種目群を受給した者については、「若手研究」への応募を認めない方向で応募制限を見直す。
- ・ 具体的には、研究費部会において、若手研究者が「できるだけ早い段階で、より円滑に、科研費の中核である「基盤研究」に移行していくこと」の重要性が示された平成21年度(平成22年度助成)以降に「基盤研究」種目群を受給したものが応募制限の対象。

令和3(2021)年度公募より、平成22年度以降に「基盤研究」種目群を受給した者の「若手研究」への応募を認めないこととする。

1. 令和3(2021)年度公募の主な変更点③

「若手研究」の応募資格経過措置について①

R3公募
NEW!

若手研究における応募資格の経過措置

「第6期科学技術基本計画に向けた科研費の改善・充実について
(中間まとめ)」
(令和2年6月30日 科学技術・学術審議会学術分科会研究費部会)

経過措置導入の背景

- 「若手研究」の応募要件は、若手研究者のキャリア形成に係る多様なニーズに的確に応えるとともに、国際通用性にも留意し、より効果的な支援を行う観点から、平成30年度助成より、年齢から博士号取得後の年数に見直された。
- この応募要件見直しによる激変が生じないよう、39歳以下の博士号未取得者については、当面は応募を認める経過措置を設けることとされたところ。
- また、経過措置の期間については、新要件導入後3年程度とし、応募・採択の状況を踏まえて改めて検討（分野の特質を勘案する適否を含む）することとされた。



改善に向けた方向性

- 新要件導入後3年の応募・採択の状況等を踏まえると、経過措置の導入により激変が生じることなく制度の定着が進んでいると考えられることから、令和2年度をもって応募資格の経過措置は終了することが適当。

令和3(2021)年度公募より「若手研究」の応募要件を「博士号取得後8年未満の者」とし、39歳以下の博士号未取得者対象の経過措置は令和2(2020)年度公募をもって終了。

Ⅲ 公募内容の変更点

※出所：令和3年度科研費公募要領等説明会資料より

1. 令和3(2021)年度公募の主な変更点④

「若手研究」の応募資格経過措置について②

R3公募
NEW!

令和3年度公募における「若手研究」応募の可否

応募要件から年齢を撤廃

	39歳以下の研究者	40歳以上の研究者
博士の学位未取得者	× (注1)	× (注1)
博士の学位取得後8年未満	○	○
博士の学位取得後8年以上	× (注2)	× (注2)

(注1)

応募時に博士の学位を取得しておらず、令和3年4月1日までに博士の学位を取得する見込の者は応募可能。

※ただし、博士の学位を取得できなかった場合には、採択されても交付申請を辞退。

(注2)

博士の学位取得後に取得した育児休業等（産前・産後の休暇、育児休業）の期間を除くと、

博士の学位取得後8年未満となる者は応募可能。

1. 令和3(2021)年度公募の主な変更点⑤

「基盤研究(B)」の優先採択の廃止について

R3公募
NEW!

優先採択の仕組み（経過措置）の廃止

経過措置導入の背景

「第6期科学技術基本計画に向けた科研費の改善・充実について
(中間まとめ)」
(令和2年6月30日 科学技術・学術審議会学術分科会研究費部会)

- 経験の浅い若手研究者に独立して研究する機会を与え、研究者としての良いスタートを切れるようにするという「若手研究」の趣旨に鑑みれば、既にシニアな研究者と十分に競い合うことのできる研究者については、特別な制度である「若手研究(A)」によることなく、「基盤研究」種目群の充実により、そのキャリア形成に即した適切な支援が十分可能であり好ましい在り方ではないか、という考えのもと「若手研究(A)」が「基盤研究」種目群に統合。
- この見直しに伴い、若手研究者の採択状況をめぐって当事者に過度の不安を生じさせないよう「基盤研究(B)」の審査において、若手研究者による応募課題から積極的に採択できる枠組みの設置（時限的な経過措置）

改善に向けた方向性



- 「基盤研究(B)」の39歳以下の研究者の応募・採択件数は、本経過措置導入初年度の平成30年度に、前年度と比較し2倍以上に増加。また、令和2年度公募から「若手研究」と「基盤研究(A・B・C)」の重複応募制限を緩和したことにより、「基盤研究(B)」の39歳以下の研究者の応募・採択件数は更に増加している。
- これらの結果を踏まえると、本措置の目的はある程度達成されていると考えられることから、令和2年度をもって終了することが適当。

「基盤研究(B)」の審査において、若手研究者による応募課題から優先的に採択できる枠組みは令和2(2020)年度公募をもって終了。

1. 令和3(2021)年度公募の主な変更点⑥

経費の取扱いに関すること①

R3公募
NEW!

「研究力強化・若手研究者支援総合パッケージ」(令和2年1月23日)等に基づくもの

1. バイアウト制度の導入について

- ・「競争的研究費の直接経費から研究以外の業務の代行に係る経費を支出可能とする見直し（バイアウト制度の導入）について」（令和2年5月22日研究振興局、科学技術・学術政策局、研究開発局、高等教育局申し合わせ）を踏まえ、科研費においても令和3(2021)年度から研究代表者及び研究分担者の研究以外の業務の代行に係る経費の支出が可能となる。

(従前)
講義等の教育活動等やそれに付随する事務等のため研究に時間を割けない



(令和3(2021年4月～))
直接経費から代行に係る経費（バイアウト経費）を支出し、研究以外の業務を代行要員に代行してもらうことが可能に

研究に専念
できる

バイアウト制度の導入により直接経費から研究以外の業務（※）の代行に係る経費の支出が可能となり、研究に専念できる環境が整備される。

※対象業務に該当するかどうか判断し難い場合は、以下までお問い合わせください。
文部科学省研究振興局振興企画課競争的資金調整室
e-mail: kenkyuhi@mext.go.jp 電話: 03-5253-4111 (内線3828,4014)

1. 令和3(2021)年度公募の主な変更点⑦

経費の取扱いに関すること②

R3公募
NEW!

1. バイアウト制度の導入について（つづき）

- 科研費では、令和3年度以降**ほぼ全ての研究種目**（以下参照）が**バイアウト制度の対象**となります。

【バイアウト制度の対象となる種目】

特別推進研究、学術変革領域研究、新学術領域研究（研究領域提案型）（『学術研究支援基盤形成』は除く）、基盤研究、挑戦的研究（挑戦的萌芽研究を含む）、若手研究（若手研究（A・B）を含む）、研究活動スタート支援、特別研究促進費、国際共同研究強化（B）、帰国発展研究（国内の研究機関に所属した後に限る）

【バイアウト制度の対象とならない種目】

奨励研究、研究成果公開促進費、特別研究員奨励費、新学術領域研究（研究領域提案型）『学術研究支援基盤形成』、国際共同研究強化（A）（改称前の国際共同研究強化を含む）。ただし、国際共同研究強化（A）（改称前の国際共同研究強化を含む）は、必要に応じて「代替要員確保のための経費」を計上することができる。

- 令和2年度以前に採択された継続研究課題も対象。また、研究分担者がバイアウト経費を支出することも可能です。
- なお、バイアウト経費の支出を希望する場合は、所属する研究機関の構築した仕組みにのっとり、**研究機関と研究代表者（又は研究分担者）の合意に基づいて実施**することとなります。バイアウト経費を支出する場合は、以下（※）に留意しつつ、**研究計画調書の「その他」の費目に計上し、「事項」欄に必ず『バイアウト』という文言を記載**してください。

※ バイアウト制度は、研究代表者（又は研究分担者）の希望に基づき、当該研究課題に専念できる時間を拡充するための制度であることから、研究代表者（又は研究分担者）の希望の有無や、当該研究課題に専念できる時間の拡充状況（増加時間数など）等について経費の執行状況と合わせて確認する場合があります。その際、当該研究課題に専念できる時間の拡充が確認できないなど適切に支出されていない場合は当該経費の返還を求めることがありますので、各研究機関においては適切に運用してください。

1. 令和3(2021)年度公募の主な変更点⑧

経費の取扱いに関すること③

R3公募
NEW!

2. 科研費により雇用される若手研究者の自発的な研究活動等の実施について

- ・ 科研費被雇用者の若手研究者（※）のうち下記の条件を満たしている者は、各研究機関における必要な手続を経た上で、**雇用元の科研費の業務に充てるべき勤務時間において自発的な研究活動等を行うことが可能**です。
 - ・ この場合には、新たに科研費の研究代表者として応募することができるほか、研究分担者になることもできます。
 - （1）若手研究者本人が自発的な研究活動等の実施を希望すること
 - （2）研究代表者等が、雇用元の科研費の推進に資する自発的な研究活動等であると判断し、所属研究機関が認めること
 - （3）研究代表者等が、雇用元の科研費の推進に支障がない範囲であると判断し、所属研究機関が認めること（雇用元の科研費の研究課題に従事するエフォートの20%を上限とする）
- （※）各年度4月1日時点において「40歳未満」又は「博士の学位取得後8年未満」の者であって、研究活動を行うことを職務に含む者。なお、科研費に応募する場合は、科研費の応募資格を満たすことが必要。

（従前）
自発的な研究活動等の実施には、雇用されているプロジェクト以外の雇用財源を確保することが必要



（令和2(2020)年4月～）
所属研究機関の承認が得られれば、雇用されているプロジェクトから人件費を支出しつつエフォートの一部（上限20%）を自発的な研究活動等に充当可能

若手研究者の
育成・確保

科研費により雇用される若手研究者の自発的な研究活動等の実施が可能に

1. 令和3(2021)年度公募の主な変更点⑨

経費の取扱いに関すること④

R3公募
NEW!

3. 研究インテグリティに関すること

(背景)

- 「統合イノベーション戦略2020」において「研究コミュニティが、外国からの不当な影響による、我が国の卓越した研究活動や、開放性、透明性といった研究環境の基盤となる価値が損なわれる懸念を認識した上で、研究の健全性・公正性（「研究インテグリティ」）を自律的に確保していく取組が重要となることから、その問題の明確化及び対処するための方策について、研究コミュニティの間で共通の理解が図られるよう、報告書の作成等に向けた検討・働きかけを実施」とされている。
- また、「**外国資金の受入について、その状況等の情報開示を研究資金申請時の要件とし、政府資金が投入される研究を対象に透明性と説明責任を求めるとともに、虚偽申告等が判明した際の資金配分決定を取り消す**などの枠組みの具体策を検討し、所要の措置を講ずる。」とされている。

(科研費制度における取扱い)

- 外国からの資金により研究を実施している場合（受け入れ予定を含む）は、その状況等の情報開示を研究資金申請時の要件とします。

外国から資金を受け入れる場合も研究計画調書の「研究費の応募・受入等の状況」欄に必ず記載すること

1. 令和3(2021)年度公募の主な変更点⑩

公募に関する注意点等①

R3公募
NEW!

1. チェックリストの提出について

科研費による研究の実施にあたり、研究機関事務代表者はe-Radを利用し、以下2つのチェックリスト様式のダウンロードと提出を行ってください。

- ①「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」に基づく「取組状況に係るチェックリスト」
提出締切：令和2(2020)年9月28日(月)
- ②「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)」に基づく「体制整備等自己評価チェックリスト」
提出締切：令和2(2020)年12月7日(月)

チェックリストの提出がない場合には、当該研究機関に所属する研究者への交付決定を行いません。

2. 添付ファイル項目の上限ファイルサイズ見直しについて

- ・ 今回の公募から、以下の研究種目については添付ファイル項目をアップロードする際の上限ファイルサイズを変更します。
- ・ 引き続き、システムの安定性に留意しつつ、他の研究種目においても上限ファイルサイズの変更を検討していきます。

研究種目名		変更前	変更後
特別推進研究	研究計画調書	3MB	10MB
	領域計画書	6MB	10MB
学術変革領域研究(A)	研究計画調書	3MB	5MB
	領域計画書	6MB	変更なし
学術変革領域研究(B)	研究計画調書	3MB	5MB
	領域計画書	6MB	変更なし
基盤研究(s)	研究計画調書	3MB	5MB

1. 令和3(2021)年度公募の主な変更点⑪

公募に関する注意点等②

R3公募
NEW!

3. 公募期間について

公募開始

令和2(2020)年9月1日(火)

研究計画調書の提出(送信)期限

令和2(2020)年11月5日(木) 午後4時30分(厳守)

※いかなる理由であっても、上記の期限より後に提出(送信)された課題は受理しませんので、
時間に十分余裕を持って提出(送信)してください。

※応募書類の提出(送信)後に、研究計画調書等の訂正、再提出等を行うことはできません。

4. 新型コロナウイルス感染症のスケジュールへの影響

公募開始時(9月1日)におけるスケジュールは次のとおりですが、新型コロナウイルス感染症の影響等により、全体のスケジュールに変更が出る可能性があります。特に総合審査を実施する研究種目(※)については、スケジュールどおりに進まないことが予想されます。交付内定の時期が遅れる場合は、HP等で周知します。

特別推進研究※	基盤研究(S)※	基盤研究(A(※)・B・C)、 若手研究	挑戦的研究(開拓・萌芽)※
令和2(2020)年12月～ 令和3(2021)年4月 審査 令和3(2021)年4月下旬 交付内定 5月中旬 交付申請 6月下旬 交付決定 7月頃 審査結果開示 7月中旬 送金(前期分) 10月頃 送金(後期分)	令和2(2020)年12月～ 令和3(2021)年5月 審査 令和3(2021)年6月下旬 交付内定 7月中旬 交付申請 7月下旬 交付決定 8月中旬 送金(前期分) 8月頃 審査結果開示 10月頃 送金(後期分)	令和2(2020)年12月～ 令和3(2021)年3月 審査 令和3(2021)年4月上旬 交付内定 4月下旬 交付申請 4月頃 審査結果開示 6月下旬 交付決定 7月中旬 送金(前期分) 10月頃 送金(後期分)	令和2(2020)年12月～ 令和3(2021)年6月 審査 令和3(2021)年6月下旬 交付内定 7月中旬 交付申請 8月中旬 交付決定 8月下旬 送金(前期分) 8月頃 審査結果開示 10月頃 送金(後期分)

1. 令和3(2021)年度公募の主な変更点⑫

国際共同研究の改善・充実について

R3公募
NEW!

国際共同研究の改善・充実について

「第6期科学技術基本計画に向けた科研費の改善・充実について
(中間まとめ)」
(令和2年6月30日 科学技術・学術審議会学術分科会研究費部会)

①「国際共同研究強化(A)」の改善

- ・ 本種目の趣旨は、科研費採択者が現在実施している研究計画について、国際共同研究を行うことでその研究を格段に発展させ、優れた成果を上げることを目的とし、その結果、国際的に活躍できる、独立した研究者の養成にも資することを目指したもの
- ・ 本種目における36歳以上の下限は、振興会の海外特別研究員制度の以前の応募資格を参考としたものであるが、本種目では「基盤研究」等の採択者であることを応募資格の要件としていることから、今後は、より多くの採択者に応募機会を与えられるよう、下限の年齢制限は設けないことが適当。

②「帰国発展研究」の改善

- ・ 本制度は、海外の研究機関等において独立した研究者を対象としていることから、現在、応募資格において「ポストドクターを除く」としているが、ポストドクターの中には自らの責任で自由に使用できる研究費を獲得している者などもおり、「独立した研究者」や「ポストドクター」について、全ての分野において合意を得られるような明確な基準等を設けることは困難。
- ・ 海外で活躍する優秀な若手研究者の応募機会を更に拡大するためには、本種目の趣旨に合致している者であれば、「ポストドクター」という身分であったとしても、本種目への応募を認めることが適当。
- ・ 自らの責任で自由に使用できる研究費を獲得していることは「独立した研究者」であることの一つの証左になり得ると考えられることから、今後は、本種目の研究計画調書において、研究代表者が現に獲得している研究費の状況等を記載させることも必要。その際、国によって研究費の制度、応募資格等に違いがあることに留意し、審査において一律な判断をしないよう留意する必要がある。

③国際共同研究を推進するための改善

- ・ KAKENにおいて国際共同研究に関する情報検索を容易に行えるようにし、国際共同研究の一層の推進に資するため、科研費により国際共同研究を行った場合の相手国や相手研究機関等の情報を記載する報告書の所定欄を工夫することが必要。

1. 令和3(2021)年度公募の主な変更点⑬

帰国発展研究(令和2(2020)年度公募)の見直し

R3公募
NEW!

- 本種目は、海外の研究機関等において優れた実績を有する独立した研究者が、日本に帰国後すぐに研究を開始できるよう支援するもの。
※応募時点において帰国後の所属先が確定していなくても応募することが可能。

従来、応募資格を「応募時点において日本国外の研究機関に教授、准教授又はそれに準ずる身分（ポストドクターを除く）を有していること」としていた。



しかしながら、「ポストドクター」の中には自らの責任で自由に使用できる研究費を獲得するなど独立した研究者として活動している者もいることから、

・令和2(2020)年度公募（令和2年9月1日～11月5日）より、「ポストドクター」という身分であっても、本種目の趣旨に合致する場合には応募可能とする。

併せて、

- ・研究計画調書の記載内容の変更（海外の機関における自由に使用できる研究費の獲得実績等）
- ・「国際共同研究加速基金（帰国発展研究）の書面審査における評価基準等」において、帰国発展研究としての妥当性に係る要素を明確にするなど評価要素等の見直しを行っている。

【応募資格】

応募時点において、以下の3つ全てを満たしていること

- ① 日本国外の研究機関に教授、准教授又はそれに準ずる身分を有し、所属している者であること
- ② 現に日本国外に居住する日本国籍を有する者であること
- ③ 科研費応募資格を有していない者であること

【公募内容の概要】

- 応募総額 5,000万円以下
- 研究期間 3年以内

※帰国後、日本国内の研究機関に所属して科研費の応募資格を取得し、交付申請の手続を行った後に経費を執行することができます。また、応募資格取得後から令和4年4月30日まで交付申請を行うことができます。

Ⅲ 公募内容の変更点

※出所：令和3年度科研費公募要領等説明会資料より

1. 令和3(2021)年度公募の主な変更点⑭

ひらめき☆ときめきサイエンスについて

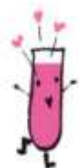
R3公募
NEW!

「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」の公募

研究成果公開促進費 研究成果公开发表（B）のうち、「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」の公募は、**昨年度より1ヶ月程度スケジュールを前倒しし、令和2(2020)年9月1日～11月5日**となります。

公募の詳細については、「研究成果公開促進費」の令和3(2021)年度公募要領に一元化し掲載しています。

令和元(2019)年度実施例



東京理科大学
『太陽の力を感じよう！～色素増感太陽電池の製作～』



新潟大学
『形の科学から探るアンモナイトと放散虫の世界』



Ⅲ 公募内容の変更点

【説明内容】

1. 令和3(2021)年度公募の主な変更点

2. 科研費使用等に関する主な改善点・変更点

3. その他連絡事項

2. 科研費使用等に関する主な改善点・変更点

博士課程（後期）学生の処遇の改善に関すること

R3公募
NEW!

（背景）

- 第5期科学技術基本計画においては、優秀な学生、社会人を国内外から引き付けるため、大学院生、特に博士課程（後期）学生に対する経済的支援を充実すべく、「博士課程（後期）在籍者の2割程度が生活費相当額程度を受給できることを目指す」ことが数値目標として掲げられており、各研究機関におけるRA（リサーチ・アシスタント）等としての博士課程（後期）学生の雇用の拡大と処遇の改善が求められています。また、「研究力強化・若手研究者支援総合パッケージ」（令和2年1月23日総合科学技術・イノベーション会議）においては、「将来的に希望する博士後期課程学生が生活費相当額程度を受給できる」ことを目標とし、具体的施策の一つとして「競争的研究費や共同研究費におけるRA等の適切な給与水準の確保の推進」が掲げられています。

（科研費制度における取扱い）

- 研究の遂行に必要な博士課程（後期）学生をRAとして雇用する場合、以下について考慮してください。
 - 各研究機関の定める基準により、業務の性質や内容に見合った単価を設定し、適切な勤務管理の下、業務に従事した時間に応じた給与を支払うこと
 - 過度な労働時間とならないよう配慮するとともに、博士課程（後期）学生自身の研究・学習時間とのバランスを考慮すること

博士課程（後期）学生等を研究業務に従事させる場合は、適切な対価を支払うようにしてください。

Ⅲ 公募内容の変更点

【説明内容】

1. 令和3(2021)年度公募の主な変更点
2. 科研費使用等に関する主な改善点・変更点
3. その他連絡事項

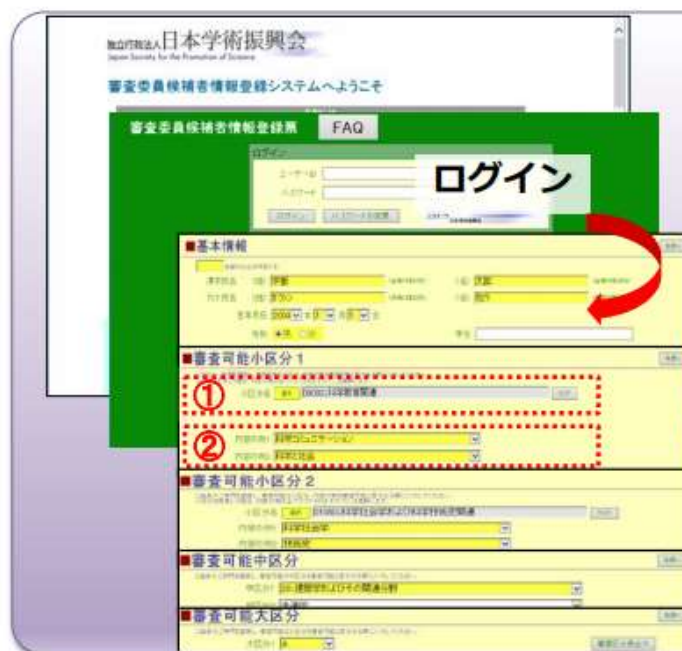
3. その他連絡事項①

審査委員候補者データの確認・更新について

「審査委員候補者データベース」に登録されているデータの確認・更新は、適切な審査委員を選考するために大変重要です。

例年4月頃、所属機関を通じて書面にてID・パスワードを送付し、研究者ご本人にデータの確認・更新の依頼をしております。**通年で更新が可能**ですので、「審査委員候補者情報登録システム」(<https://www-shinsaiin.jsps.go.jp>) にログインして、**情報の確認・更新をお願いします。**

特に、「**①審査可能区分**」及び「**②内容の例**」は、審査委員を選考する上で大変重要な情報ですので、必ず確認・更新してください。



【確認・更新をお願いする事項】

- 1. 基本情報（所属機関、職名等）**
- 2. 「審査可能区分」及び「内容の例」**
 - ・ 小区分：最大3つ（2つは必須）
※小区分については「内容の例」も必ず登録してください。
 - ・ 中区分：最大4つ（1つは必須）
 - ・ 大区分：最大3つ（1つは必須）
- 3. 主な発表論文、受賞歴**
- 4. 競争的資金の獲得状況**

3. その他連絡事項②

※出所：令和3年度科研費公募要領等説明会資料より

科研費に関するご意見・ご要望受付窓口

独立行政法人日本学術振興会において、科研費関連業務について研究者等の意見・要望を取り入れた改善を進めるため、科研費ホームページ上に「科研費に関するご意見・ご要望受付窓口」を設置しています。窓口にいただいた意見を踏まえ、今後も制度改善につなげていく予定です。

【入力フォームイメージ】

科研費に属するご意見・ご要望受付窓口

Window for Receiving Comments/Requests Regarding Grants-in-Aid for Scientific Research (KAKENHI)

科研費の取組経緯等（研究費）に關するご意見・ご要望を御記入下さい。記入のし方へは応募要領を御記入の上お読み下さい。

※ 記入の際は、必ず「ご意見・ご要望」の欄に「ご意見・ご要望」の旨を明記して下さい。

If you have any questions/requests regarding KAKENHI, please clearly indicate the nature of your official research activities.

※ In this form, please enter each of the applicable items and post the entire letter.

※ JSPS will properly handle personal information that you enter in accordance with the [Privacy Policy](#) on JSPS's website.

お名前
Name *

所属機関 - 研究種別 - 研究
Affiliated Institution,
academic year (Fy.1, position
#)

E-メールアドレス
E-mail address (E-mail address
is for confirmation) *

ご意見/ご要望
Comments/Request Items *

① 研究費の取組経緯等（研究費）に關するご意見・ご要望
② 研究費の取組経緯等（研究費）に關するご意見・ご要望
③ 研究費の取組経緯等（研究費）に關するご意見・ご要望
④ 研究費の取組経緯等（研究費）に關するご意見・ご要望
⑤ 研究費の取組経緯等（研究費）に關するご意見・ご要望
⑥ 研究費の取組経緯等（研究費）に關するご意見・ご要望
⑦ 研究費の取組経緯等（研究費）に關するご意見・ご要望
⑧ 研究費の取組経緯等（研究費）に關するご意見・ご要望
⑨ 研究費の取組経緯等（研究費）に關するご意見・ご要望
⑩ 研究費の取組経緯等（研究費）に關するご意見・ご要望

- ☐ 研究費の取組経緯等（研究費）に關するご意見・ご要望
- ☐ 研究費の取組経緯等（研究費）に關するご意見・ご要望
- ☐ 研究費の取組経緯等（研究費）に關するご意見・ご要望
- ☐ 研究費の取組経緯等（研究費）に關するご意見・ご要望
- ☐ 研究費の取組経緯等（研究費）に關するご意見・ご要望
- ☐ 研究費の取組経緯等（研究費）に關するご意見・ご要望
- ☐ 研究費の取組経緯等（研究費）に關するご意見・ご要望
- ☐ 研究費の取組経緯等（研究費）に關するご意見・ご要望
- ☐ 研究費の取組経緯等（研究費）に關するご意見・ご要望
- ☐ 研究費の取組経緯等（研究費）に關するご意見・ご要望

ご意見・ご要望
Comments and Requests *

① 研究費の取組経緯等（研究費）に關するご意見・ご要望
② 研究費の取組経緯等（研究費）に關するご意見・ご要望
③ 研究費の取組経緯等（研究費）に關するご意見・ご要望
④ 研究費の取組経緯等（研究費）に關するご意見・ご要望
⑤ 研究費の取組経緯等（研究費）に關するご意見・ご要望
⑥ 研究費の取組経緯等（研究費）に關するご意見・ご要望
⑦ 研究費の取組経緯等（研究費）に關するご意見・ご要望
⑧ 研究費の取組経緯等（研究費）に關するご意見・ご要望
⑨ 研究費の取組経緯等（研究費）に關するご意見・ご要望
⑩ 研究費の取組経緯等（研究費）に關するご意見・ご要望

確認 Confirmation

意見 区分	内容
1	科研費制度について
2	公募について(公募要領、研究計画調書の様式等)
3	審査・評価について
4	科研費の使用、各種手続きについて
5	その他

科研費に関するご意見・ご要望受付窓口

日本学術振興会科研費ホームページ：
<https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/index.html>
 (日本学術振興会科研費ホームページに設置した受付窓口の
 バナーから、専用フォームにリンク)



(参考) 科研費を含む競争的資金全般に関する意見・要望については、内閣府において受付窓口を開設しています。
内閣府URL : <https://form.cao.go.jp/cstp/opinion-0098.html>

科学研究費助成事業－科研費－（研究成果公開促進費）の概要

1 研究成果公開促進費の目的・性格

科学研究費助成事業（以下「科研費」という。）のうち、研究成果公開促進費は、研究成果の公開発表、重要な学術研究の成果の発信及びデータベースの作成・公開について助成することによって、我が国の学術の振興と普及に資するとともに、学術の国際交流に寄与することを目的とするものであり、優れた研究成果の公的流通の促進を図るものです。

2 種目

※令和2（2020）年9月現在

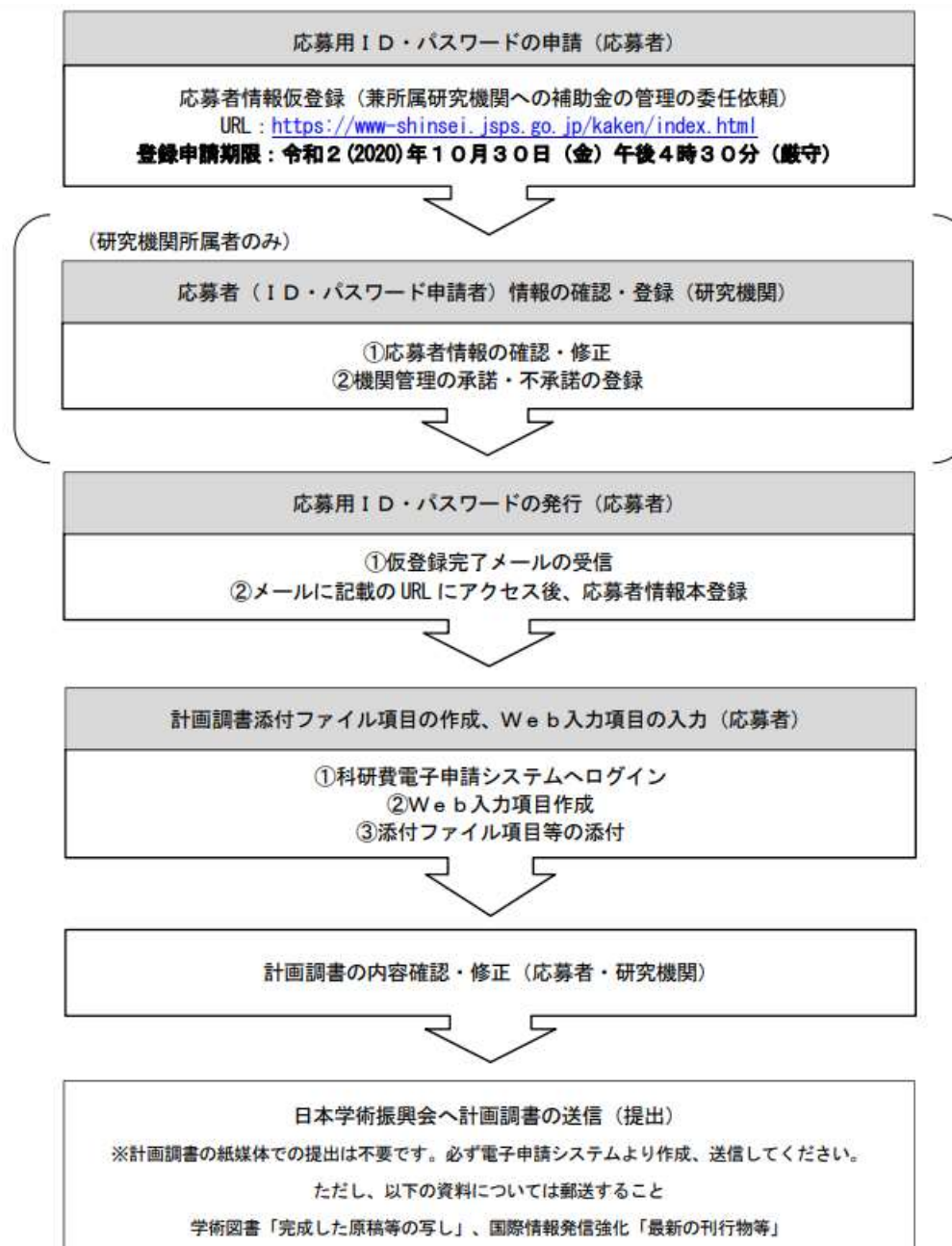
※令和2（2020）年9月現在

目的・内容			
種目	応募区分	概要	応募資格
研究成果公開発表	学会等による学術的価値が高い研究成果の社会への公開や国際発信の助成		
	【研究成果公開発表（B）】 ※1	日本国内で主催するシンポジウム・学術講演会等で、一般社会人等の関心が高いと思われる分野の研究動向・研究内容を、分かりやすく普及啓発しようとするものを対象とした助成。	学会の代表者 又は 研究機関（大学等を除く）の代表者
	【ひらめき☆ときめきサイエンスへようこそ大学の研究室へ～KAKENHI】 ※2 ※3	次の項目を全て満たすプログラムを対象とした助成。 ① 科研費による研究に関わる基礎的な内容をより分かりやすく伝え、科学に興味深さや面白さを抱けるようなプログラムであること。 ② 小学5・6年生、中学生及び高校生のいずれかが対象であること。 ③ 実施代表者の所属する研究機関が主催するプログラムであること。	e-Radに「科研費の応募資格有り」として研究者情報が登録されている研究者のうち、科研費の研究課題の研究代表者として研究を実施したことがある研究者及び 当該研究者が所属する研究機関の長
	【研究成果公開発表（C）】	日本国内で主催する国際シンポジウム・国際会議等で、主催にかかわる運営体制が確保されているものを対象とした助成。	学会の代表者
	学協会等の学術団体等が学術の国際交流に資するため、更なる国際情報発信の強化を行う取り組みへの助成		
国際情報発信強化	【国際情報発信強化（A）】	学術刊行物の発行に際し、質の保証のための組織的な体制が取られ、一貫したタイトルを付して刊行されるものの国際情報発信力を強化する取組を対象とした助成。	学術刊行物の発行に関わる 「学術団体等」の代表者
	【国際情報発信強化（B）】	なお、応募金額・種別によっては国際情報発信強化（A）又は国際情報発信強化（B）を選択できます。	
	【オープンアクセス刊行支援】	学術刊行物の発行に際し、質の保証のための組織的な体制が取られ、一貫したタイトルを付して刊行されるものの国際情報発信力を強化する取組のうち、新たな取組としてオープンアクセス刊行のスタートアップを対象とした助成。	
学術図書	個人又は研究者グループ等が、学術研究の成果を公開するために刊行する学術図書の助成		
	【学術図書】	学術研究の成果を公開するために刊行するもの。又は我が国の学術研究の成果を海外に提供するため、日本語で書かれた図書・論文を外国語に翻訳・校閲の上刊行するものを対象とした助成。	刊行又は翻訳・校閲事業の主体となる個人又は研究者グループ等の代表者
データベース	個人又は研究者グループ等が作成するデータベースで、公開利用を目的とするものの助成		
	【データベース】	我が国の学術研究動向を踏まえ、様々な分野において、公開利用を目的として作成するデータベースへの助成。	データベース作成事業の主体となる個人又は研究者グループ等の代表者

※1 本公募要領では、研究成果公開発表（B）のうち「ひらめき☆ときめきサイエンスへようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」を除いたものを「研究成果公開発表（B）」とする。

※2 本公募要領では、研究成果公開発表（B）のうち「ひらめき☆ときめきサイエンスへようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」を「ひらめき☆ときめきサイエンス」とする。

※3 「ひらめき☆ときめきサイエンス」の公募スケジュールは、昨年度より1ヶ月程度スケジュールを前倒しし、令和2（2020）年9月1日～11月5日となります。



※計画調書の送信（提出）期限：令和2(2020)年11月5日（木）午後4時30分（厳守）

「完成した原稿等の写し」等の提出期間：令和2(2020)年11月5日（木）～11月10日（火）（必着）